

9/26 (木) ニホン×ノ×テホン

Banjumrung 滞在 14 日目 (残り 1 日)。帰国まであと 6 日。

8 時くらいに起きてご飯。今日もお客さん用に昼食の準備が行われていたらしく、荷台付きバイクに大鍋が据え置かれていました。服を洗濯機に放り込んでから、まずはコミュニティセンターに行きました。

チャーを頼み (私は見るだけ)、適当に座って話したりウロウロしていると、今日のお客さん? の男性にタイ語で話しかけられました。何故か私たちが日本人であると知っていて (イーブンという単語だけ聞き取れました)、ジュエチャーで何やらこっちだよと仕草していましたが、浅山ちゃんが「これ何かやばいやつじゃないですかね。知らない人にはついて行っちゃダメですよ」と冷静にツッコんできたので何のアクションも起こさずそのままでした。そして全く気にする様子もなくふらりと去っていく男性… 本当に意味不明でした。

その後、サイクリングに行こうという話になり、私の「rice field が見たい」という要望が通って、それがあある方面へ出かけることにしました。

Banjumrung の田んぼはだだっ広くて、茎数の少ない~そこそこの稲が、密植して植えられていました。農学部的視点では、手植え (ばらまき) なのか機械植えなのか、いつ頃どれくらいの苗または種を植えるのか気になるところです。

また、場所によって背丈が 3 倍以上の違いがあり、もしかしたら、区画ごとで植える時期をズラして通年収穫できるようにしているのかなと思いました。

他にも、ため池? のようなところで水深を測るべく、木の枝や石で釣竿を作ってみたり、脇道を進んでいたら犬が追っかけてきたので全速力で逃げたり、ゴミ収集車から陽気な BGM が流れてくることに爆笑したり、どこかのお店兼民家で、「どこから来たの? どこ行くの?」とおじさんに英語で話しかけられたり…

気ままなサイクリングも楽しいなと思いました。

ちょうどお昼時にセンターに戻り、いつものように昼食をいただいたところで、ガロオーさんから「ソムタムショップにおいで」と声をかけられました。

よく分からないまま自転車に乗ってとりあえずついて行くと、道の途中から浅山ちゃんの自転車に乗り込むガロオーさん (笑) ところが、バイクですれ違った赤ちゃんが転倒して泣き叫んだので、彼女は悲鳴を上げながら来た道に戻っていきました。

幸いにもただの擦り傷で済んだようですが、病院行かなきゃ! とみんなで苦笑いでした。

お店 (犬が怖くて通りたくなかったあの場所!) に着いてからは、チキングリルやらコーラやらザクロやら、今ご飯を食べたばかりだというのにこれでもか! と食べ物が出てきました(°_°)

そして、あの恐ろしい犬たちが私の周りに集まってきて、チキンの骨を催促…「お前ら本当に都合がいいな! 普段は追いかけて来るくせに!」と言いたかったです。しかもやたらデカイ。

散々飲み食いした後で、「タオライ (いくら)?」と私が尋ねたところ、お店のおばちゃんの答えは「リアン。…フリー (無料)!」リアン、というのが何なのか結局分かりませんでしたが、ありがたく善意に甘えさせてもらいました。本当に皆さんありがとう! (*´▽`*)

センターに帰るとブンさんがいたので、奥さんとも一緒に、夕食の買い出しへマーケットに出かけました。

ナス、さつまいも、かぼちゃ、味の素、たまねぎ、ニラ、小麦粉、豚肉、卵、キャベツ、エビ

1 人あたり約 124 バーツ (約 373 円) で済ませられました。

その後、home に帰って、センターの夕食を作っているところにお邪魔しつつ、いよいよ日本食作り開始!

メニューは味噌汁、そうめんチャンプルー、天ぷら、お好み焼きです。私は主に、火のそばで大汗をかきながら味噌汁を作ってい

ました。

味噌汁や天ぶらはまあどうにか形になったのですが（天ぶらというよりは「揚げ」に近い感じ・・・徐々に自然本来の甘みを味わった気がします。タイ料理は辛い！）、チャンプルーのそうめんは茹でたらすぐ水気を切らないといけないのに、アトイさんが袋の説明書き通りに水を張ったタライにそうめんを放り込んだ結果・・・「美味しいけどちょっと違う（by 希呼）」ものになりました。その場にいた全員苦笑・・・

お好み焼きも丸く作って放置しておくのですが、どうやらタイ人はじっと待つのが不思議らしく、上からヘラで押ししたり混ぜたりひっくり返そうとしたり・・・

「アカーン!!!」と宮○大輔のごとく叫びかけたのが何度あったことでしょう（笑）

どちらにしろ、お好み焼きソースやマヨネーズが無かったので、醤油で食べるという事態になりました。ソースをかける常識はもちろん分からないので、知らずにそのまま食べた人からは不評でした(´ ; ω ; `)

そんなこんなで完成した日本食は、プンさん宅で食べる分と、センターで出される料理の一部（！）とに分けられ、荷台付きバイクで運ばれて行きましや。

私たちは「うまい!」と思った料理でしたが、タイの皆さんから聞こえてきたのは「ケム（しょっぱい）」という言葉・・・もちろん「アロイ（美味しい）」もありました。

醤油や塩で味付けした日本食は、私たちがタイ料理を辛いと思うように、タイ人にはちょっと塩辛いものなんだなあと感じました。繊細なダシの味を美味しいと思うのも、日本人特有なのかもしれません。

ただ、「タイと日本の料理交換だ!」ということで、奥さんがトムヤムクンやエビのマリネ?を作ってくくださったのですが、私たちからすると最近ずっとタイ料理を食べているので、「いや、今さら(´▽`;)」感が満載でした。

ちなみに夕食後はセンターに行き、ウィスキーを飲みながら、私はタイ米にのりたまふりかけを乗せて食べていました。

ついにあと1日となりました。

最後の最後、何か楽しいことが起こればいいなあと思います。